

360°カメラを活用した施設点検(試行) ～溪流保全工(三次市内)～

【実施概要】三次市内の溪流保全工(大力谷川支川)において、**360度カメラを活用した施設点検**を行った。**360度俯瞰できる撮影画像**(動画含む)によって、従来の写真撮影では把握が困難であった**広域な施設情報を記録・管理**することができた。

【期待される効果】①効率化:**シームレスな施設情報として記録**することや、**現地と執務室の間でデータを共有**することができる。

②高度化:変状箇所等を**様々な角度・視点から確認**でき、より詳細に現地状況を把握可能。また、**同一箇所における異なる時期の撮影データの比較が容易**となるため、点検における**経時変化を把握しやすい**。

① 360度動画撮影による現地作業の効率化



360度動画データより、撮影軌跡上の360度画像を作成できるため、撮り忘れによる再調査が減少

タブレット端末と360度カメラを連携し、用途に応じて平面写真や360度写真、動画撮影などを使い分けることで、効率的に施設やその周辺の情報を取得することができる。

② クラウドサービスを活用したインフラ施設管理の高度化



任意の方向へ画像を回転

変状箇所周辺の状況を詳細に確認できるため、1枚の画像データで変状要因等の推定が可能

撮影画像を確認したい方向に回転できるため、より詳細に現地状況の把握が可能となる。撮影地点ごとに時系列で管理することで、変状種別や内容、進行状況などを簡単に管理することが可能となる。

③ 意思決定に必要な現地情報を関係者間で共有



撮影データの任意の箇所に変状情報などのコメントを記載して共有することが可能

この変状規模であれば、「B評価」が妥当だな
現地調査員から確認依頼
熟練技術者

複数の現地調査員の報告をまとめて確認することができるため、災害時の臨時点検等にも有効



平面図内の撮影箇所をクリックすることで、専用サイトにリンクし、360度画像の確認が可能

平面図(pdfデータ)を事業関係者で共有

360度画像を熟練技術者や事業関係者で共有することにより、円滑なコミュニケーションが可能となり、現地情報に対する認識のずれが解消され、業務効率や調査・作業の正確性が向上する。